

平成 25 年度 事業報告書

1. 事業の成果

本年度も継続して災害救助犬の育成に励んでいます。

本年は 8 月 20 日に発生した豪雨による災害、「広島土砂災害」において被災した広島市安佐南区に隊員 3 名と救助犬 3 頭を派遣し発災当日から救助活動を行いました。この災害では日頃から訓練等で連携する NPO 法人ジャパン・タスク・フォースおよび全日本救助犬団体協議会の NPO 法人日本搜索救助犬協会と共に、連携して計 3 日間の事業を実施致しました。またこの 2 年ほどの間講習会などで顔の見える関係を築いた他の救助犬団体とも協働し、延べ 100 頭近い災害救助犬が民間から出動しました。結果、日本レスキュー協会として 1 名の行方不明者の発見、また他団体を含めると数人の行方不明者発見に至りましたが残念ながらご遺体としての発見でした。

本年度も現場対応のための連携および今後の国内の救助犬の在り方を協議することを目的として全日本救助犬団体協議会参加の北海道ボランティアドッグの会、埼玉県所在の NPO 法人日本搜索救助犬協会、熊本県所在の NPO 法人九州救助犬協会、沖縄県所在の沖縄災害救助犬協会と引き続き協議および合同訓練を継続しています。また全日本救助犬団体協議会に参加していない救助犬団体とも積極的に交流を深め有事に備えています。

これまで生存者のみを対象とした搜索活動を実施してきた結果、遺体を発見することに至っていましたが、犬の反応についてはハンドラーにとって不確実なものであったため、遺体に対する犬の反応を明確にすることは課題としてあげられていました。そのためこの 11 月にアメリカ合衆国から招致された、犬を使った遺体搜索スペシャリストを講師とした、遺体搜索ワークショップに参加し、この知識と技術基本を修得してきました。これについては来年度以降も訓練を継続して、精度を上げていきます。

平常時の訓練としては、兵庫県広域防災センターのガレキ搜索救助訓練施設の使用や、協定を締結する行政との実践的な訓練の実施、協会本部での豊中市消防本部、池田市消防本部との合同訓練また他救助犬団体の本拠地である長野県や岡山県での合同訓練も実施しました。

また、本年も多数の自治体と防災訓練を行うとともに、今後起りうる災害に迅速に対応出来るよう精進していきます。

本年度も継続して動物の保護・愛護活動を実施しています。

セラピードッグメディカルセンターでの動物愛護活動については、2012 年度からの東日本大震災による被災犬の一時的な預かりを継続しています。また広島県の豪雨土砂災害にて被災された方の中で避難を強いられている方の愛犬の受け入れ調査を開始しました。通常のアドプション活動として前年度からの活動継続が主となっており、猫に関しては緊急保護を要する個体のみを保護し、計 8 頭の犬猫を新規に受け入れ、計 8 頭の犬猫を一般家庭に譲渡しました。

本年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しています。

東日本大震災の被災地で仙台市内・石巻の仮設、関西地区へ県外避難されておられる方への慰問活動、台風 1 2 号災害の被災地、奈良県五條市の仮設住宅などにセラピードッグを派遣しました。

関東地区への訪問も年に 4, 7, 10 月の 3 回、通常時の福祉施設などへのセラピードッグ訪問活動の件数は、今期は約 1 3 0 回。ここ最近新規の訪問施設も増えてきておりますので、来期は新規訪問施設を増やしつつ、その施設に定期的に訪問できるように努力してまいります。

これからも災害救助犬やセラピードッグの育成・派遣に努め、同時に動物愛護の啓蒙活動をますます充実させていくべく活動に努力してまいります。